

## 令和5年度 第2回 米子市児童文化センター運営委員会 発言要旨

### 1. 令和6年度事業概要について

(委員)

令和6年度は6件の新規事業を開催とあるが、新規事業として採用した経緯を教えてください。

(事務局)

令和5年度第1回運営会議で、委員から「利用者からのニーズを汲みとって新規事業に活かしてほしい」という意見をいただいた。その後利用者アンケートに要望を伺う項目を追加した。その中で卓球に対する要望やご意見、地域のことを調べてほしいといった声が多く聞かれた。こういった声を基に「卓球体験会」や「城下町を体験しよう」といった新規事業を計画するに至った。

(委員)

利用者アンケートを通して保護者の方々からはどのような声が聞かれたか。

(事務局)

アンケートに設けている項目の中の「新しいイベントをしてほしい」にチェックをしておられる方が多く見られた。具体的に何をというような声を聞くことはできなかったが、「児童文化センターに行けば何かしている」と、期待していただいていると感じた。

(委員)

現在の職員数で施設管理も行っている。6件もの新規事業を行うことに困難が生じるということはないか。

(事務局)

児童文化センターのみで事業実施をするというのではなく、活動を終了した事業に代わる新規事業、米子市文化財団施設連携事業、高校生と協力して行う事業もある。今年度開催した事業数と大きな増減はみられない。

(委員)

- ・クラブ活動が終了したことにより、使用していた機器などが使用されないままになっているのではないか。人材確保も含め、手法を講じ、情報発信を行い、子ども達の興味・関心があるものは存続させていただきたい。
- ・主催として事業を行うだけでなく、共催や外部との連携するなど、周りをつながりをもって事業を行ってはどうか。
- ・事業の精査・整理は必要であるように感じる。
- ・高校生が指導を行う新規事業「卓球体験」を通して、プラネタリウムも含め、中高生が足を運ぶきっかけになればと期待している。

### 2. 令和5年度上期モニタリング結果について

(委員)

図書の展示方法など、他施設の取組も参考にしながら来館者にとって、旬な情報を発信していただきたい。

(事務局)

館内やホームページ、広報誌を見られての来館者が多くある中、口コミによる情報提供は最も確実だと考えており、今後も力を入れていきたいところである。図書室については、展示方法など更なる工夫をしていくことが課題である。

(委員)

ホームページやX (Twitter) は分かりやすく目を引くような作りがされていて高く評価できる。

(委員)

令和5年度の評価を終えて児童文化センターが取り組んでいきたいと思うことはあるか。

(事務局)

現在の来館者の年齢層は小学校の低学年までである。小学校中学年以上の方にも広く利用していただきたく、事業内容、広報の方法も含め課題と捉えている。

(委員)

- ・小学生の視点に合わせた冒険心を煽るような興味をそそるような誘導の仕方をもっと取り入れてみてはどうか。
- ・手元の携帯電話で情報を受け取れるようにLINEやインスタグラムを活用してはどうか。
- ・事業の申し込みにQRコードを導入してはどうか。
- ・季節の行事などは地域の行事と重複しているものが多々ある。独自性を持った事業を開催していく必要があるのではないか。

(事務局)

市の取り組みとしては児童文化センターの所有する図書館車と市立図書館との間で本を提供しあい、本を介して、児童文化センターの紹介をしている。昨年は夏休みを利用して、なかよし学級でプラネタリウムの利用をした。実際体験したことを家庭に持ち帰り、ご家族や友達と足を運ぶきっかけとなり、利用促進につながっていければという期待もある。手法を講じながら広がりを見せられる取り組みも行っているところである。

### 3. その他

(事務局)

次回運営委員会は7月に開催予定である。

以上。